

へい わ ちか 平和への誓い

め と そうぞう
目を閉じて想像してください。

みどりゆた うつく ひと しょうてんがい え がお
緑豊かで美しいまち。人でにぎわう商店街。まちにあふれるたくさんの笑顔。

ねんまえ ひろしま いま か いろあざ にちじょう
79年前の広島には、今と変わらない色鮮やかな日常がありました。

しょう わ ねん ねん がつむい か ごぜん じ ふん
昭和20年（1945年）8月6日 午前8時15分。

「ドーン！」という鼓膜が破れるほどの大きな音。

た のぼ くろ み しゅいろ くも
立ち昇る黒味がかった朱色の雲。

ひと くさき や たす もと こえ ぜつぼう なみだ う つ
人も草木も焼かれ、助けを求める声と絶望の涙で、まちは埋め尽くされました。

ある被爆者は言います。あの時の広島は「地獄」だったと。

げん し ばくだん いろあざ にちじょう うば ひろしま はいいろ せ かい か
原子爆弾は、色鮮やかな日常を奪い、広島を灰色の世界へと変えてしまったのです。

ひ ばくしゃ わたし そう そ ぼ とう じ よう す かた
被爆者である私の曾祖母は、当時の様子を語ろうとはしませんでした。

こと ば かな き おく ねん た いま おお ひ ばくしゃ くる つづ
言葉にすることさえつらく悲しい記憶は、79年経った今でも多くの被爆者を苦しめ続けています。

いま せ かい せんそう つづ
今もなお、世界では戦争が続いています。

79年前と同じように、生きたくても生きることができなかった人たち、

あ す とも す ひと うしな ひと せ かい
明日を共に過ごすはずだった人を失った人たちが、この世界のどこかにいるのです。

ほんとう
本当にこのままでよいのでしょうか。

ねが へい わ
願うだけでは、平和はおとずれません。

いろあざ にちじょう まも へい わ わたし
色鮮やかな日常を守り、平和をつくっていくのは私たちです。

ひとりひとり あいて はなし き
一人一人が相手の話をよく聞くこと。

「違い」を「良さ」と捉え、自分の考えを見直すこと。

なか ま きょうりよく ひと な と
仲間と協力し、一つのことを成し遂げること。

わたし へい わ いっ ぽ
私たちにもできる平和への一歩です。

さあ、ヒロシマを共に学び、感じましょう。

へい わ き ねん しりょうかん けんがく ひ ばくしゃ こと ば ふ
平和記念資料館を見学し、被爆者の言葉に触れてください。

そして、家族や友達と平和の尊さや命の重みについて語り合いましょう。

せ かい か へい わ いっ ぽ いま ふ だ
世界を変える平和への一歩を今、踏み出します。

れい わ ねん ねん がつむい か
令和6年（2024年）8月6日

こども代表	ひろしま し りつ ぎ おんしょうがっこう	6年	か とう あきら
	広島市立祇園小学校		加藤 晶
	ひろしま し りつ や はたひがししょうがっこう	6年	ねん いしまる ゆう と
	広島市立八幡東小学校		石丸 優太